

学校教育目標 いきいき学び、心豊かに生活し、未来を切り拓く 子どもの育成

- ・事実と知識を大切にし、探究する子ども
- ・自ら調べ、考え、学ぶ子ども
- ・人とのつながりを大切にする子ども
- ・豊かで楽しい生活を追い求める子ども

仲春の候、保護者の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は本校教育推進のためにご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

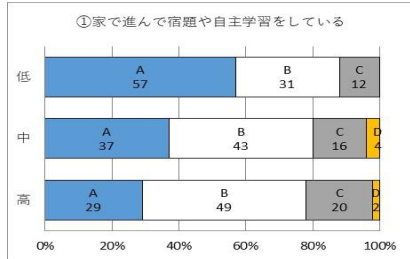
さて、今年度12月に実施しました前期振り返りアンケートの集計結果について、お知らせいたします。

◇ 低…低学年(1・2年生) 中…中学年(3・4年生) 高…高学年(5・6年生)

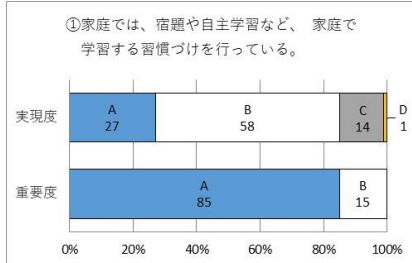
1 確かな学力

【家庭での自主学習】

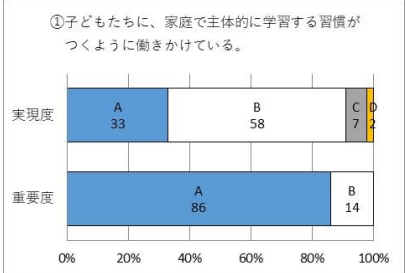
〈児童〉



〈保護者〉

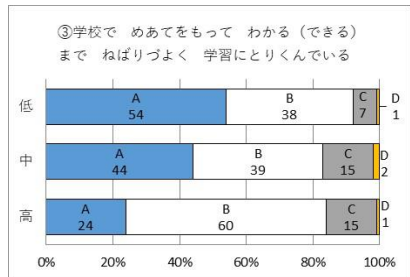


〈教職員〉

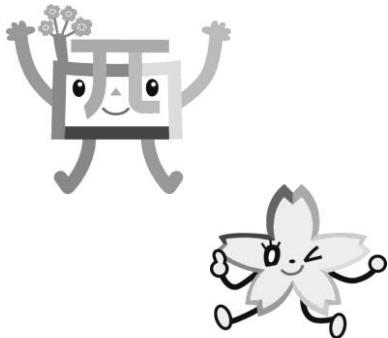
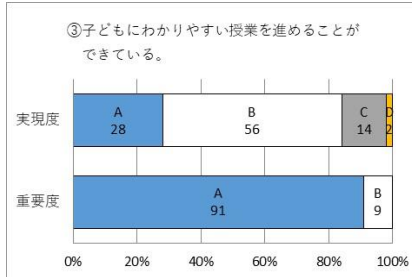


【めあてをもって粘り強く学習に取り組む】

〈児童〉

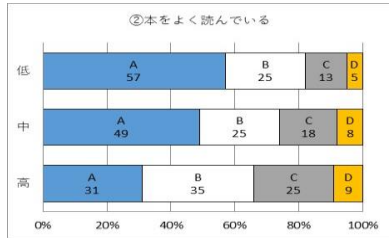


〈教職員〉

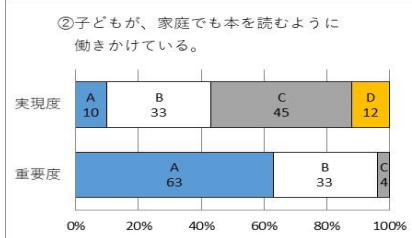


【読書の習慣】

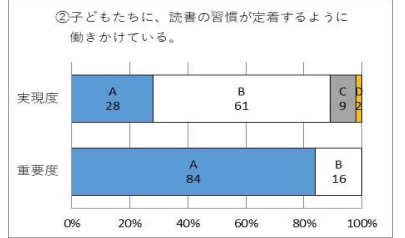
〈児童〉



〈保護者〉



〈教職員〉



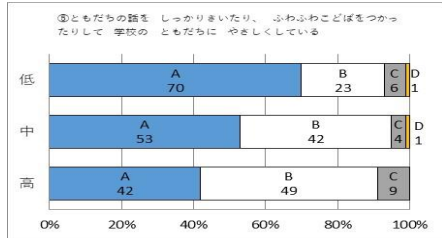
「めあてをもって粘り強く学習に取り組む」については、前期の結果と比べると、どの学年も肯定的な回答が少しずつ減っています。これは、年度が進むにつれて学習内容が難しくなり、自信をもって「できた、わかる」と感じる児童が減ってきたからではないかと考えられます。それにともない、「家庭での自主学習」についても、肯定的な回答が少しずつ減ってきていると考えられます。これを改善するためには、児童が主体的に学習に取り組み、「できた、わかる」と感じられるような授業となるようにすることが必要です。児童の関心・意欲やクラス・学年の実態に沿いながら、子ども主体の授業展開になるように、どの教科・どの単元でも、今以上に計画的に教材研究や授業準備などを進めていきます。また、自主学習については、家庭学習の方法をくり返し伝えたり、学習内容を工夫したりすることで学習習慣の確立、家庭学習の質の向上に努めていきたいと思います。

「読書の習慣」については、家庭と学校での児童への働きかけについて肯定的な回答が前期と比べて増加しました。その結果、中学年で肯定的な回答が増加しました。また低学年でもA(積極的に読書に取り組んでいる)と回答している割合が、前期と比べて増えました。学校と家庭がともに児童に働きかけることで、児童の読書への関心・意欲が高まっていたのではないかと考えられます。その一方で高学年では肯定的な回答が減っていました。朝読書には全校で取り組んでいますが、それ以外の時間に主体的に読書に取り組むことができていないと考えられます。各教科等の学習と関連させながら、いろいろな機会に少しでも読書に親しむことができるように働きかけていきたいと考えています。前期に引き続き読書週間の取組の一つとして「おうちで読書」を呼びかけたところ、たくさんのご家庭から感想をお寄せいただきました。今後も図書ボランティアさんによる読み聞かせや読書週間の取組等、引き続き学校司書や図書ボランティアの皆様とも協力して、日常の読書の習慣化につなげていきたいと考えています。

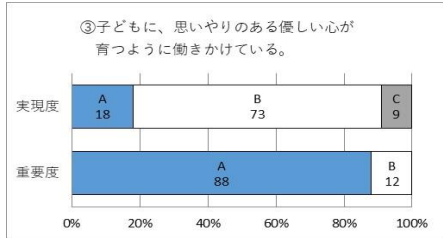
2 豊かな心

【思いやりのあるやさしい心】

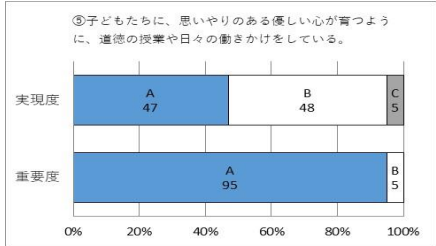
〈児童〉



〈保護者〉

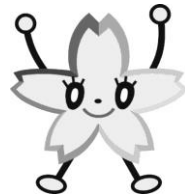
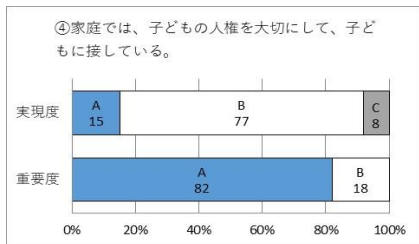


〈教職員〉

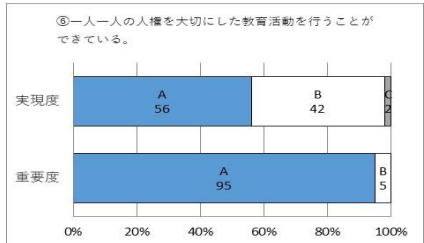


【人権を大切にした教育】

〈保護者〉

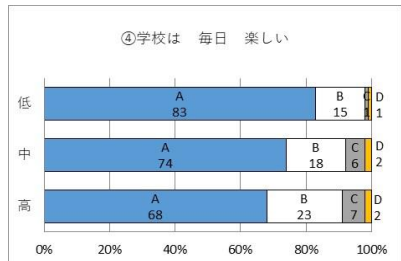


〈教職員〉

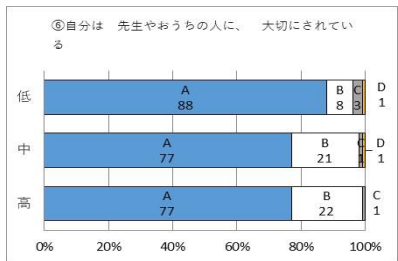


【楽しい学校生活】

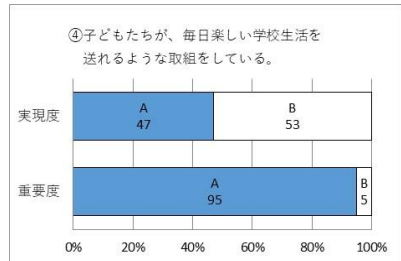
〈児童〉



〈児童〉

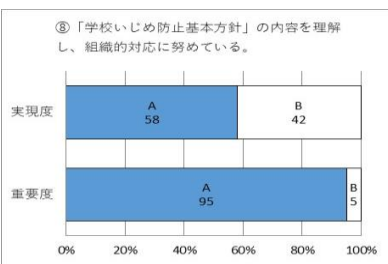


〈教職員〉

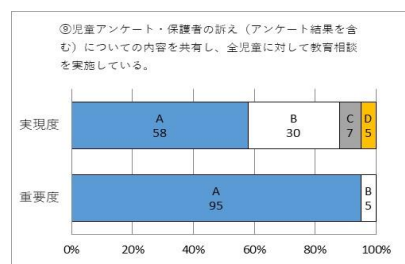


【いじめ防止のための取組】

〈教職員〉



〈教職員〉

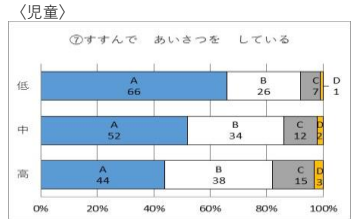


「思いやりのあるやさしい心」「人権を大切にした教育」については、児童・保護者・教職員で肯定的回答が90%を超える結果となりました。本校のめざす子ども像、「人とのつながりを大切にする子ども」に向けて、学校や家庭での取組の積み重ねが、このような良好な結果を招いていると考えられます。しかし一方で、CD回答の児童がいることもしっかりと受け止める必要があります。また、アンケートの結果だけではなく、普段の児童同士の関わり合いを教職員がしっかりと見取り、ふさわしくない言動については全教職員が同じ視点で指導することが大切だと考えます。どのような言葉をかけるとみんなが気持ちよく過ごせるか、自分はどのような言葉をかけられたときにうれしかったのかななどを交流することにより、温かい言葉かけを実践していけるようにすることも大切です。同学年・異学年の友達、地域の方々等、多くの人との関わりの中で、自分の思いだけ押し通すのではなく、相手のことを考えて行動することの大切さも学んでほしいと思います。また、保護者・教職員においても、自らの言動が周囲に及ぼす影響を想像する力を養い、自らの人権意識を高めていくことが大切であると考えます。

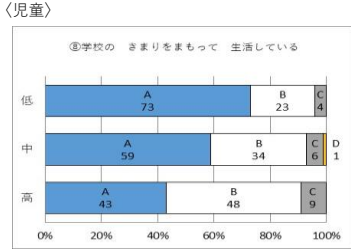
前期と同様に90%以上の児童が「学校は毎日楽しい」と感じているようです。また、「自分は、先生やおうちの人に、大切にされている」については、肯定的回答が低学年96%、中学年98%、高学年99%とこちらも前期と同様大へん高い結果となりました。児童が身近な大人から大切にされている、と感じられていることは、心の安定につながっていると思います。また、自分が大切にされていることは、まわりの人を大切にすることにつながります。しかし、そうでないと感じている児童がいることもしっかりと認識し、担任をはじめとした教職員がしっかりと児童の様子を把握し、その思いを受け止めることが大切です。そのためには、児童の言葉に耳を傾け、家庭と連携しながら働きかけていく必要があると感じます。そのために、この「振り返りアンケート」はもちろん、「にこにこアンケート(いじめアンケート)」、4年生以上の「クラスマネジメントシート」などを有効に活用し、児童の実態を把握することに努めています。更に「児童に対する教育相談の実施」は、確実に丁寧に行うよう努めています。またご家庭におかれましても、お子様との対話を大切にしていたら、様子を見守っていただいたりしていると感じられます。こうした働きかけが、児童の「学校が楽しい」「自分は先生やお家の人に大切にされている」の結果にもつながってくのではないかと考えて取り組んでいます。



### 【あいさつをする】

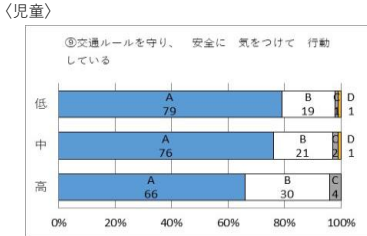


### 【規則を守る】



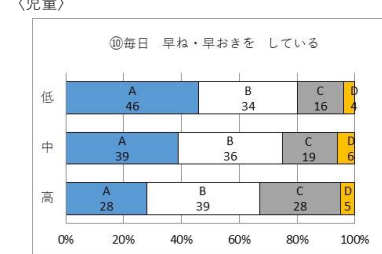
## 3 健やかな体

### 【安全に気を付ける】

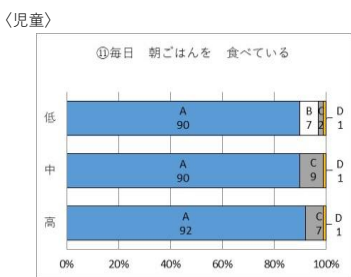


「安全に気を付ける」においても肯定的回答の割合が多くを占めています。多くの家庭で安全について話題にいただき、学校でも安全に配慮した教育活動を心かけていることで、家庭と学校が連携して児童への働きかけができていることが伺えます。また、子ども見守り隊の方々も、児童の登下校の様子を毎日見守ってくださっています。しかし、児童の様子を見ていると、特に下校時に車が頻繁に通る道を行っていたり、友達と遊びながら帰っていたり、危険な場面をよく見かけます。今後も引き続き、子ども見守り隊の方々とも連携しながら、児童の様子を見守り、必要に応じて注意を促していきます。

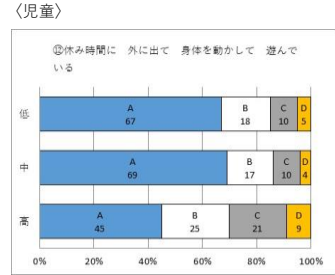
### 【早寝・早起き】



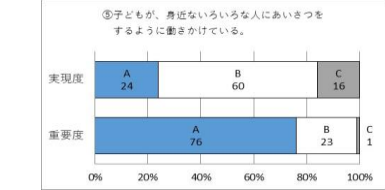
### 【朝ごはん】



### 【体を動かして遊ぶ】



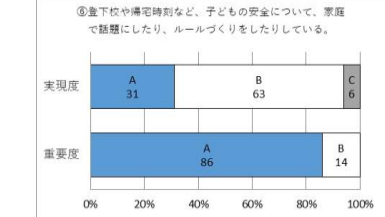
### ＜保護者＞



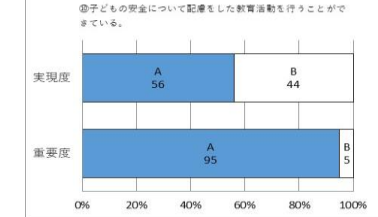
「あいさつをする」の児童の回答については、肯定的回答の割合が多い状態（低学年92％、中学年86％、高学年82％）となっており、前期と比べてもそれほど肯定的回答の割合は変化していません。しかし日々の生活の中で児童の様子を見ていると、しっかりあいさつができているのに、登下校のときには地域の子どもの見守り隊の方に自分からあいさつができにくいということもあります。相手意識をもってあいさつをすることが大事だということを児童が確実に理解し、TPOに応じたあいさつができるように取組を進めていきます。また、教職員や保護者をはじめとする身近な大人が、相手意識をもったあいさつをしていくことも必要だと考えます。

「規則を守る」については、どの学年でも肯定的回答の割合が多くを占めています。例えば廊下は歩くというきまりについては、歩くことにより、自分だけでなく周りの人の安全を守ったり、一人一人を大切にしたりすることにつながっていくということを全ての教職員が児童に話しています。規則を守るとは、友達を大切にし、自他の安全を守ることにつながるという人権の視点についても児童が理解できるようにするとともに、その重要性を自覚し、自ら行動できるような取組を今後も継続していきます。

### ＜保護者＞



### ＜教職員＞

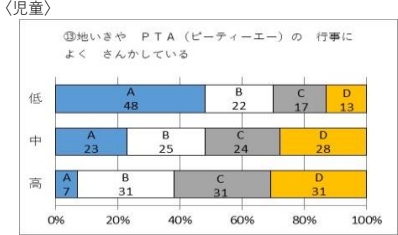


「早寝・早起き」については課題が見られます。前期と比べると肯定的な回答が全学年減少しています。さらに学年が上がるにつれ、宿題や習い事、メディア（TV、ゲーム、タブレット）などに時間を費やすことが多くなっているため、就寝が遅くなり、起床も遅くなることがあるようです。また、「朝ごはん」についてCD回答の児童も、少なからずいることが分かります（中学年10％、高学年8％）。早起きできていないため、朝食をしっかりと摂ることができていないのだと思われます。教職員の働きかけにも改善の余地があります。各学級での指導に加え、保健だより等で睡眠時間の確保の大切さや時間の使い方（TVを観る時間、物事の優先順位など）、体育科の保健学習や養護教諭による保健指導、栄養教諭による食の学習とも関連させながら、規則正しい生活習慣の確立、健康への意識を高めていきます。また、長期休業明けに「生活見直し週間」を設定し、すこやかチャレンジのプリントで実態把握をすることで、家庭と協力しながら、児童が生活リズムを整えることができるよう全教職員が意識して指導を行っていきます。またメディアに時間を費やすことが増えることで、SNSトラブルに巻き込まれないように、前期同様、情報モラルについて様々な場面で学習できるように取組を進めております。また、来年度より高学年で、生成AIに関する情報モラル学習も始まります。ご家庭でも、メディアを使う際のルールについて、お子様とお話をして決めていただきたいと思います。

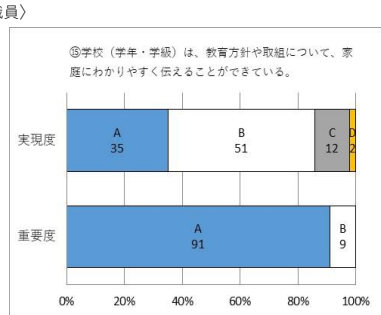
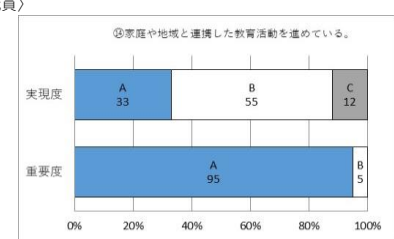
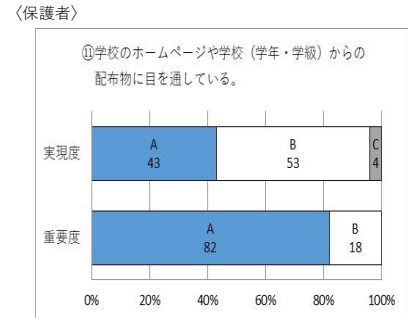
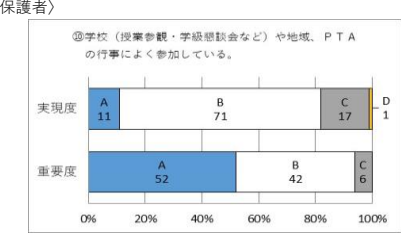
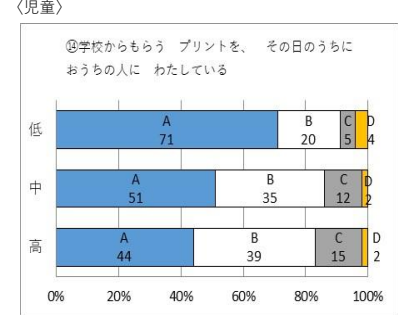
「休み時間に外に出て体を動かして遊んでいる」については、前期よりも肯定的な回答が全学年で増えました。多くの児童が休み時間に外で元気に遊んでいる姿が見られます。しかし、まだ個人差があるようです。今後も学級での「みんな遊び」や、「たてわり遊び」、様々な遊びに挑戦する「ジャンプアップ週間」も活用しながら、児童の体力向上をめざした取組を進めていきます。加えて、体を動かして遊ぶことが成長に及ぼすよさについても伝えていきます。

## 4 その他

### 【地域・PTA行事への参加】



### 【学校・家庭・地域の連携】



「地域・PTA行事への参加」については、前期と比べて全学年で肯定的な回答の割合が増えました。しかし児童の実現度は低学年と比べて中学年・高学年では低くなっています。保護者の結果からは、参加することは重要と考えてはいるが、時間的な余裕がなく、参加できていないという実態も伺えます。その一方で、今年度はPTAの学級委員の選出もあり、多くの方に行事へのご参加、ご協力をいただいております。年に数回でも参加できる機会があれば、地域のたくさんの人々となつながることができます。災害等、何かが起こった時にお互いに助け合える絆づくりを普段からしておくことも大切だと考えます。そういった視点からも、学校ホームページや学校だりを通して広報に努め、参加を呼びかけていきます。

「学校からもらうプリントをその日のうちに おうちの 人に渡している」では、前期と同様にCD回答が学年が上がるにつれて増加しています。また全体的にCD回答が前期と比べて増えました。このことから、年度が進んだり学年があがったりするにつれてルーズになっていることがうかがえます。学校からおたよりなどが配布された日に、確実にご家庭に届くように普段から持ち物を整理整頓する習慣づけを今後も行っていきます。また、学校ホームページについては、タイムリーに更新して情報発信に務め、家庭や地域の学校教育活動への理解を得るとともに、家庭や地域と連携した取組をさらに進められるようにと考えています。来年度は今年度以上に保護者連絡ツール「すぐる」でおたよりや、緊急のお知らせを配信する予定です。必ず通知をONに設定していただきますようお願いいたします。

### ◆学校評価委員会の皆様のご意見

- 朝読書の時間は、子どもたちにとって本に親しむ貴重な機会である。ぜひ、継続してほしい。また本を読むことで、文章力を磨くこともできるの
- で子どもたちには、読書に親しんでほしい。
- 子どもたちの多くが「学校は楽しい」と思っていることが大変うれしい。
- 身近な大人が子どもたちの見本となる言動を心掛けることが大切である。
- 子ども見守り隊の方には毎日感謝している。子どもたちだけでなく、大人の私も見守り隊の方に挨拶をしていただくことで毎朝の活力となっている。
- 子どもの時の経験は、大人になって活かされることが多い。ぜひ子どものうちから、地域の行事に参加し、大人になって地域を盛り上げる存在になってほしい。

京都市教育委員会生涯学習部より発行されている「コミュニティ・スクール通信@京都」にも掲載されているように、子どもたちの学校生活をよりよいものにするためには、学校・家庭・地域が互いに高め合う双方向の信頼関係を構築することが何よりも大切です。そして、三者が「子どもたちのために、自分はどういうことができるだろうか。」という意識をもって、それぞれが教育活動に参画し、子どもを育むための取組を進めていくことが大切です。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。